

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action!

第4回（11月5日（火）放送分）の概要

今回は、「地域循環共生圏とは」という話と、ゼロカーボン活動を通じて地域循環共生圏を作っていくという話をします。

地域循環共生圏とは、環境省が示しているものです。都市や農村など色々な地域、それぞれの持つ強みを活かしながら、お互いに元気な地域にしていこうという考え方です。

元気な地域とは、環境省が提唱したとはいえ、環境的にというだけでなく、社会的にとりか経済的にということも含んでいるのが特徴です。つまり、地域の住民や企業が楽しく健康的に活動している感じですね。

鹿角市のような自然豊かな地域には、森林・水・地熱など豊富なエネルギーのもとになる資源があります。まずは自分たちで、こうした資源を活かして電気や熱といったエネルギーを作り、石炭など海外から輸入する燃料に頼らない地域となることを目指します。

都会の地域は、エネルギーに係る資源がない代わりに、電気に係る専門性のある人材やお金があつたりします。ということで、都会の人材やお金が、鹿角市のような自然豊かな地域でエネルギーを作るのを手伝い、その代わりに都会にそのエネルギーを送って、都会の生活もうまく回ることを目指します。

これが実現すると、鹿角市のような自然豊かな地域と仙台のような都会とがともに喜ぶ Win-Win の成り立つこととなりますね。こうした地域の状態を地域循環共生圏と呼んでいるのです。

そうなのですね。では、鹿角市ではまずはエネルギーのもとになる資源を活かして、太陽光発電などで再生可能エネルギーを作っていけるといいのでしょうか？

そうですね。例えば、鹿角市で地元の方を中心に発電所の設置・運営をやり、作った電気ですばやく地域を元気にし、一部は都会に売って、都会の方も喜ぶという感じですね。

実際に、この地域循環共生圏が具体化されている地域というのはあるのでしょうか？

具体化されている地域がいくつかあります。

例えば熊本県小国町(おぐにまち)です。ここでは、地域の方が主体となって団体を立ち上げ、その団体が地域の資源である地熱を使った発電所を作り、その利益を町の活性化に活用しています。そして、専門的な知見は、都会の電力会社の力を借りているとのこと。